

よえもん

2016年3月

第 35 号

シリーズ
よえもん

永久のおむり

今月のことば



1648年8月、藤樹先生は持病のぜん息が重くなり、起き上がれなくなっていました。先生のぜん息は、まくらを高くすると、楽になるので、病気がおこるといくつも積み重ねよくなっていくと、一つずつはずしていきました。

先生のお母さんが心配して「具合はどうですか?」とたずねると、先生は苦しい中からまくらを一つはずし、心配をけいまいとしました。しかし、苦しさは増すので、そばで看病する布理夫人に、近くに住む門人を呼んでもらいました。

そして、子供たちやお母さん、布理夫人のこと、書院のことを頼むと、静かに目を閉じ

先生は、息をひきとりました。

藤樹先生が亡くなったという

悲しい知らせが伝わると、

村人や門人、先生の徳をいたう

人々が、たくさん集まってきました。

そして、ていちょうにほうぶりました。

先生のお墓は、記念館から歩いて5分くらいのところにある。

玉林寺の門前にあります。



何事も皆だれかの世の中を
迷いて犬と
知るぞはかなき

書・淵田瑞穂さん
出典・中江藤樹の和歌

「何もかもが、ちりや糞のようによごれた世の中を犬と同じように夢遊病的に生きるのは、はかないことだ。」 という意味です。

藤樹先生は、「物に本末あり。先後するところを知らば、すなわち道に近し。」とされています。

本は、美しく光り輝く心です。

末は、その心に従う意思的行動です。

この光り輝く良知をもって、世のちりや糞を取り除くことが、大切です。

皆さん、これからも「致良知」をめざし、「五事を正す」を実践していきましょう。

記念館だより

次回の小企画展のお知らせです。
中江藤樹が読んだり書いたりした本について取り上げる予定です。

日々 進歩向上を続けていた藤樹。本によって思想がどのように深化していったかを、紹介します。

現在の小企画展「中江藤樹ならびに藤樹家を支えた人たち」は3月31日までの開催となります。ぜひ、ご来館ください。

記念館さんぽ

お願い 最近、動物の飼育や植物の栽培などに使われたと思われる砂れきを含んだ土が、陽明園にひんげんに不法投棄されています。悪臭を放つ土も捨てられています。このことについて、どんなとせ結構ですので、記念館まで情報をいただくとありがたいです。お願いします。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL/FAX (0740)-32-0330